

## 補論 1

### 地域エンジニアリングと農村アニメーターの事例

須田 文明

#### 目次

- (1) ローヌアルプ州の事例
  - 1) 地域エンジニアリングと地域的ガバナンスの組織的形態の追求
  - 2) 身近な場所での雇用創出
- (2) フランシュコンテの IT の歴史と事例
  - 1) フランシュコンテ州の IT の歴史
  - 2) 振興アニメーターの仕事
- (3) アルデシュ山の事例
  - 1) 振興の局面とアクター
  - 2) アルデシュ山の栗
- (4) AOC ブルーチーズ Le Bleu du Vercors Sassenage の例
  - 1) 活動内容
  - 2) アクターの役割の分析
  - 3) アクターとエンジニアリングとの状況
- (5) 二つの事例から導かれる教訓
- (6) ブルゴーニュ州の 4 つのペイの事例
  - 1) 背景と主題の枠組み
  - 2) ネットワークと調査分析
  - 3) 動員されるネットワークと専門知
  - 4) 地域のプロジェクトにおいてアニメーターにより動員される専門知
  - 5) 一般的結論

補論 1 では、具体的な地域エンジニアリングと農村アニメーターの活動について、事例を紹介することで、読者に明快なイメージを持っていただく。なお引用文献はすべて本資料集の本論に掲載してある。

## (1) ローヌアルプ州の事例

ローヌアルプ州は、地域と多くの契約（観光振興、文化、経済振興、環境）を結んだ後で、90年代中頃に、振興グローバル契約 CGD (1992) に基づいた地域振興政策に取り組んだ(Angeon,Bertrand, 2009)。これは、次いで、その第二世代として、2000年に実施されることになったローヌアルプ振興契約(CDRA, 今日では「ローヌアルプ持続的振興契約 CDDRA」)に基づいている。この措置の目標は州の優先目標と地域のニーズとを結合させることである。CDRA は「持続的振興を展望して、経済的、社会的環境的な側面を和解させる地域政策を支援することである」(州議会 2000)。経済振興に優先性が与えられているとしても CDRA は、地域に固有なテーマ全体を考慮するプロジェクトを作成することができる。手続きは三つの段階を踏む。まずは、候補プロジェクトと州による認可である。州は、採用された空間的区画と運営委員会の妥当性を検証する（メンバーの代表性、コーディネーション機関の質、集団の連合体の質）。第二に、目標契約ないし憲章の作成（プライオリティの定義、10年の展望を持ったビジョン）。最後は最終的な契約の認可で、5年間で実施される活動プログラムを示す。州との交渉や、活動とその財源に関わる CDRA は混合組合により支えられる。CDRA は、もし可能であれば雇用圏域に近い地域のプロジェクトの実施を支援するように促される。

### 1) 地域エンジニアリングと地域的ガバナンスの組織的形態の追求

2005年12月15-16日、ローヌアルプ州議会は、地域振興の調査と活動についての審議を採択した(Délibération du Conseil régional, no.0507922)。これは、地域エンジニアリング IT についての最初の構成を提起し、「地域振興に向けたローヌアルプ州における IT」の構成を提案した。それは、27のパートナーと二つの研究クラスター、公的機関、振興と地方整備に不可欠なプロ的な技術能力管理のために承認された NPO とからなる。

さらに 2006年1月27日に、州議会常任委員会は、CDRA のアニメーションに必要な「ジェネラリスト地域エンジニアリング IT」に向けた財政支援を与えた。州と州レベル以下の地方公共団体の結合体 EPCI との間で交わされた地域的公共活動の契約の質は、「とりわけ、アニメーションの質に基づく」と州は考え、「(州が CDRA の政策の中で財政支援する) アニメーターに期待される主たるミッション及びコンピテンスと、地域政策とを接合させる」とした。

また 2007年における州地域政策部の中での「IT、空間計画、大規模プロジェクト」は、この措置を組織的に補完するものである。

同時に中央レベルでも、地域整備競争力省際委員会 **DIACT**（国家州プロジェクト契約 2007-2013 年の地域的側面を定義している）は、公共資金を調整し、相互共有しようとする。それは、一定空間での「IT の再結合」によって公的支出を合理化した。

これらの二つの IT 概念、州にとっての地域アニメーションに資するノウハウ、国家のための公的支出の合理化手法、市町村連合は、IT の制度の矛盾した争点を反映している。それは、90 年代以降のローヌアルプにより始められたプロジェクトの地域の三つの世代を通じている。

#### i) グローバル振興契約(CGD, 1992-2000)

1992 年の共和国地域行政に関する法律 **ATR** と地域整備振興基本法 **LOADT(1995)**（Pays への準拠を公共活動の合理化手法とした）において、ローヌアルプ州（自由民主党 **Charles Millon** 議長）は、1992 年 10 月 30 日に最初の州地域整備振興スキームを採択した。1993 年 7 月 23 日に、議会は、地域振興契約政策を承認し、それには振興グローバル契約 **CGD** も含まれ、これが主要な手法をなした。これらは市町村連合に基づいている。その考え方は、「日常生活空間、柔軟な地理的地域、部門別にではなくあらゆる移動や日常活動の実体験の現実に対応している空間を立ち上げること」、つまり人々が、共通の公共投資を構想する際に、同じ問題に直面し、同じ制約に直面しているような空間である。最初の **CGD** は 1995 年に 5 年間の期間で成立した。全部で 49 の合意が、ローヌアルプ州をカバーしている。そのうちの一部は、脆弱な農村空間への支援として、国家州計画契約（第 11 次プラン、1994-1998）に統合された。リヨンとグルノーブル、サンテチエンネ **Saint Etienne** といった大都市（州との特別なパートナーシップがある）を例外として、すべての州空間がこの措置によりカバーされた。

こうした地域改革を背景にしてローヌアルプ州は、その権限を政治的レベルにまで拡張しようとした。そこでは、県がその特権を維持しようとしていたのである。こうして複数の郡のレベルで「プロジェクトの地域」の区画の政治的交渉によって、州レベル以下の地域で州の方針が実施される。「地域の製造」は複数の要素の組み合わせから生じる。すなわち、「科学的神話」、例えば州の見方、移動可能性、雇用域のような空間の客観的基準、**INSEE** により定義された統計的閾値が、プロジェクトの地域の議長のような名誉ある政治的ポストを創出することになる。

#### ii) ローヌアルプ州振興契約 **CDRA(2000-2008)**

2000 年に **CGD** が **CDRA** と名称を変えた。フランス民主主義連盟 **UDF** の **Anne Marie COMPRINI** 議長の下で州は 5 年間で、振興活動への方法論的、ロジ的、技術的支援を追加した。この手続きが、**LOADDT** の規定するペイの全国的政策と関連づけられるとき、それは、ローヌアルプ州ペイ振興契約 **CDPRA** と呼ばれる。こうして 2000-2006 年の期間について国州計画契約の交渉時点で州知事は、二つの手続きの共存を承認した。こうして古い **CGD** が **CDPRA** の中に混合されることができし、国州計画契約の地域的側面をな

すこともできる。こうして 46 の CDRA と CDPRA がある。

ローヌアルプは、このときその行動プログラムの大多数を、共通した地域的区画へと収斂させようとした。例えば雇用訓練に関して言えば、2005 年 7 月 5 日に、社会党の J.J. Queyranne に指導された州は、その権限のために、2004 年の社会的包摂計画 *plan de cohesion sociale* として、雇用訓練地域契約 CTEF を採択した。これは CDRA/CDPRA アクシオンプログラムと関連しているだけでなく、その地域的レベルで適用されなければならないことになった。

### iii) ローヌアルプ持続的振興契約 CDDRA(2008-2015)

振興措置を地域的に統合しようとして 2008 年 7 月 10 日に、州議会は第三世代の、6 年間の契約を設定した。すなわち CDDRA である。州は、CDDRA と連携を強化して、例えば雇用訓練政策を地域化させようとした。それはまた、地域エネルギー気象計画も統合している。それまで、州は地域整合スキーム Scot については乗り気ではなかった。というのも、2000 年 12 月 13 日の連帯地域刷新の法律はまだそれについて決定しておらず、関連した公的人格が、区画の定義に必要な公的調査を行った。それは CDDRA と共にその連携に取り組もうとした。IT（これらの装置の統合において決定的な資源をなしている）は、技術的、組織的コンピテンスを管理し、常に、これらの措置のアニメーターを選抜し雇う権利を要求することで、それを構造化しようとする。

## 2) 身近な場所での雇用創出

以下では、Janin, Grasset, Lapostolle(2011)によりながら、ローヌアルプ州における「身近な場所での雇用創出 *site de proximité*」の事例を紹介しよう。農村では、雇用創出が本質的課題である。その孤立性、コンピテンスを動員することの困難を考慮して、これらの地域はローヌアルプでアドホックな措置の支援を受ける。すなわち「身近な場所での雇用創出」である。これは州に 6 つほどあり、これらがプロジェクトの担い手を支援し、田舎で、公共サービスの欠如を補完するために人々へのサービスを行う。例えばある「身近な場所での雇用創出」Aix-Urfe-Cote Roannaise は 1999 年に作られ、当初は、公共職業安定所 ANPE タイプの公共サービスであった。しかし ANPE は農村地帯から撤退することになったのである。それに対応して地方議員たちは、Roannais の CGD（振興グローバル契約）により共同ファイナンスされたアニメーターを雇用した。地方での雇用機会を探索し、当該の住民と、再就職の多様な措置とを関連づけるために、振興アニメーターは議員たちとともに、河川や森林の維持の「緑集団」での失業者雇用へとその介入領域を拡大させた。こうしたイニシアチブの永続化は、Roannais の CGD を「身近な場所での雇用創出」へと代替することでなされた。それは、20%は 4 つの地方公共団体共同体により、州と国がそれぞれ 15%、欧州 FEDER が 50%を負担している。2007-2013 年のプログラムについて、「身近な場所での雇用創出」は、そのミッションを拡大している。つまりこれらは農

村振興資源センターCRDR や別の「身近な場所での雇用創出」とパートナーをくんで農村振興のプラットフォームとなっているのである。農業省と州が、集散的に作成された雇用創出ノウハウと手法の普及を財政支援している。CRDR は、1996 年に国の農業省州出先機関 DRAF と州の州農業局とにより設置された。これは、国の部局、地方公共団体、研修センター、大学、試験場、進行プロ、州および国の NPO ネットワークなどとパートナーを組み、1,000 人の振興アニメーターの職業化をミッションとしている。

CRDR の支援を受けて、「身近な場所での雇用創出」は雇用創出手法を構想し実施している。これは地域の特徴を明らかにする。これは、再生不可能な知識に基づき、雇用供給を差別化し、雇用創出地域を活性化させる。「軸となるアクター」と呼ばれる振興アニメーターが、雇用創出の構想を中心として動員された 15 人ほどの資源、ローカルグループ（議員、NPO、企業、補助金支出者、企業主、不動産保有者など）を連携する。会議所や大学、研修生学生、国の部局が、振興アニメーターにより、アドホックに動員される。「身近な場所での雇用創出」は、翻訳（「交渉と、説得行為、計算、暴力の総体。それにより、アクターないし力は、他のアクターの名前の下で、もしくは他の力の名前の下で、語り、行為する権威を自らに許容し、付与される」Callon, Latour, 2006, pp.12-13, ただし Janin, Grasset, Lapostolle(2011), p.41 より引用）と分業（コンピテンスの相互作用、管理の量的技術、市場調査、マーケティング）に貢献する。こうした地域的発意 *ingéniosité* は、議員や NPO、住民のルーティンを破壊し、彼らは、自らが消費するサービスの生産者となる。振興アニメーターが（彼らの地位を保証してくれる）公共活動を運営する。彼らはこれを補強し、彼らの経験を別のプロジェクト地域に移転する。「身近な場所での雇用創出」は応用学校となり、その効率性は、措置の連携に依存し、そのネットワークの安定性による。

農村での雇用創出において、連携の論理が地域エンジニアリングの効率性を生み出す。アプリオリには共通性を持たない雇用分野に関する分散した知識の関連づけが、ニッチ的外部性、財およびサービス生産の要素を生み出す。新自由主義的政策の実施を背景に、公共サービスのミッションを担うべき公共制度がすでに撤退している場所で、こうしたニッチ的な財やサービスが社会的ニーズに応える。

## （２） フランシュコンテの IT の歴史と事例

ローヌアルプの事例を離れて、Jeannot (2005)によりながらフランシュコンテ州の事例を紹介しておこう。

### 1) フランシュコンテ州の IT の歴史

分権化と市町村連合体の刷新の間で農村振興アニメーターが登場する。Jeannot (2005) はフランシュコンテを事例に農村アニメーターの萌芽的な登場について描いている。彼が

地域振興アニメーターとして取り上げる基準は以下の通りである。すなわちフルタイムで、市町村共同体もしくはペイの空間に対応する特別な地域で、農村振興の手続き（農村整備計画、市町村連合憲章、欧州プログラム）を実施するアクター（公共、民間）である。つまりそれはニーズの定義、財源収集、実施のフォローアップである。（Jeannot の定義による）最初の振興アニメーターは、1970 年以降、農業省県出先機関 DDAF や農業会議所によりリクルートされた契約アニメーターであった。分権化と並んで、地方機関、しばしば NPO が任期付き CDD で雇用している。これは、ポストの数の減少に示される。「地域振興」の黄金時代と呼ぶものは、雇用にとっては引き潮の時期に対応する。徐々に、1995 年以降、2000 年以降は急速に市町村間協力公共機関 EPCI とペイの増加が、多くのポストの創出を伴い、地方公共団体の契約者によって占められた。

第 1 表 フランシュコンテ州のアニメーターのポスト

期間	1970-74	1975-79	1980-84	1985-1989	1990-94	1995-99	2000-2003
新規雇用	12	7	11	8	10	15	32
最大ポスト	12	15	19	10	12	23	51
支配的地位	国及び農業会議所の契約者	国及び県の契約者	国及び県の契約者	民間 (NPO) 任期付き	民間, 任期付き	民間任期付き, EPCI 契約者	EPCI 契約者

注：新規雇用は、フランシュコンテで、当該機関に、振興アニメーターのポストに初めて就いたアニメーターの数、最大ポスト数は、当該機関に同時に開かれているポストの最大数。

## 2) 振興アニメーターの仕事

最初の振興アニメーターは、1970 年以降、農村整備計画のためにリクルートされた。都市整備指導指針に対応して、「施設による解決策」の論理が優先され、あらゆる介入は施設を生産することであった。それは、生産力主義的農業政策の画期に対応していた。「調査担当」と呼ばれた任務は、一方では地域の統計データの収集と処理、他方で、整備が行われる地域の住民ニーズの把握であった。

予算選択の合理化に由来するグループ・アニメーションという手法が、当時、農業省の部局により提案されており、これが農村整備計画のために活用された。

農村整備計画における計画化から 1975 年のペイ契約、次いで 1983 年の市町村連合憲章へと、そのアニメーションも変化してくることになる。

こうして徐々に、同一の解決策が次々に再生産された。こうした均質化は、国と欧州、地方公共団体の共同財政手続きにより強化された。国家のテーマ的な手続きが維持され、欧州構造基金の財政により補完された。しかし基金配分のメカニズムを通じて、州や県がその地域活動を主導した。

以下の第2表は1995年に市町村共同体 Val d'Amour の振興整備協会のツーリズム計画のそれぞれの構成要素の共同負担を示している。

第2表 Val d'Amour のツーリズム計画

財政支出	事業
県（地方振興計画）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化遺産の高付加価値化</li> <li>・観光広報</li> <li>・レジャーセンター</li> <li>・農業と観光に関する調査</li> <li>・地域のアクターのネットワーク化</li> <li>・観光看板，標識</li> </ul>
州振興契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光看板，標識</li> <li>・活動ゾーニング</li> <li>・キャンプ場</li> </ul>
リーダープログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と観光に関する調査</li> <li>・地域のアクターのネットワーク化</li> <li>・観光看板，標識</li> <li>・小道の整備</li> <li>・カヌー</li> </ul>

出典：Jeannot (2005)

### (3) アルデシュ山の事例

#### 1) 振興の局面とアクター

以下ではやはり、ローヌアルプ州のアルデシュ山州自然公園 Parc des Monts d'Ardeche を事例に、IT と農村アニメーションについて紹介しておこう (Janin, Grasset, Lapostolle, 2011)。ここでは、政治的側面は、制度としての自然公園、地域の市町村連合とからなっている。他方、市民的側面は、倫理的責任を意識したイニシアチブにコミットする個人的、集合的アクターからなる。彼らの組織様式はネットワーク的である。たとえばアルデシュ山では、市町村議員、レストラン業者、彼らが「栗祭り」の起源であり、彼らは市民的領域に貢献すると考えられる。

エンジニアリング・テクニシャンの側面では、意思決定とイニシアチブにおいてアクターの支援装置のノウハウが作成され、組織化される場所として考えられる。アルデシュ山では、これらの側面の多くの部分が自然公園の部局に見いだされる。コミューンのアニメーターは栗関連のサプライチェーン組織のテクニシャンと協力する。

それぞれの調査地域はまず、プロジェクトにより提示される。このプロジェクトの各段階は、プロジェクト行動における鍵として、もしくは地域的資源の活性化として検証される。以下のような4つの段階が確認できる。

- ・立ち上げ、登場の局面。これは、プロジェクトの目標（例えば栗）が特定のアクターにとって異なった意味を持つような局面である。
- ・拡大局面。できるだけ多様な立場や状況、また事物の新しい価値、プロジェクトの利益、これらを多数のアクターが共有する時期に対応する。
- ・発展局面。次いで、または平行して、生産の組織化、社会経済機構や制度による、事物や製品の活用にある。
- ・最後に、プロジェクトのレベル、地域のレベルで、コーディネーションが事物と地域の別の資源との間の関連づけの局面に関わる。

これらの4つの局面（継起することもあれば同時並行でもある）において、アクターのタイプと、その介入様式、結合とが分析できる。この3つの側面について、プロジェクトの地域に関与するアクターたちの立場に応じて、実際の過程と手続きが、以下の二つの事例（アルデシュ山と、次項のAOCブルーチーズ）に即して説明される。

## 2) アルデシュ山の栗

### i) 活動内容

（戦後まで貧者のジャガイモと考えられてきた）栗の高付加価値化という考えは、1970年頃、地方の文化生活に関与したアクターにより生み出され、同時に、栗生産者の行動も見られた。平行して、地方公共団体もアルデシュ山公園の設置（1999年に実現）に積極的に関与し、業種間組織もAOC栗の取得に関わった。

これらの期間の過程は徐々に進み、1980年代に、Iターンの新農村人やレストラン業者へと行動が拡大し、徐々に、メニューや地方の文化的な祭りの中に浸透していった。公園設置委員会は、この製品を中心にした多様なパートナーを集結させた。すなわち食品関係（レストラン、パティシエ、パン屋）、ホテル業者、様々な分野の学生、アルデシュの団体商標「アルデシュを味わおう *Goûter l'Ardeche*」、栗生産者である。一年を通じて、栗を全く異なったやり方で調理できることを示すために、また栗が季節の産品であるという考えを脱却するために、これは、1999-2001年の間に美食コンクールを組織した。最初はアルデシュの地方コンクールで、次いで、イタリアの国際コンクールでなされた。

栗と栗生産の文化的活用の枠組みにおいて、公園設置委員会が、4つの祭と秋の農業フェアを実施し、「秋の栗園」というイベントを行った。プロジェクトの登場に際して、地域をアニメートすることが重要であり、住民同士の出会いのお祭りのイベントを創出し、毎年公園により組織されている。2005年にはそれは、真のツーリズム振興をなすようになった。

2006年にAOCが取得され、業種間組織は、公園の機構の振興と関連している。公園は



政治的に豊かになっており、学際的な技術チームを備えている。

こうした行動において、エンジニアリングは、自然公園創出のための NPO の中で、次いで公園設立後は、公園の機構の中で急速に組織化された。公園機構の中では、今日、ミッション（文化、農業、ツーリズム、経済）を担う学際的技術チームをなしているアニメーターが見られる。それは、栗園の組織者である村の中に散らばったエンジニアリングネットワークと組んで、栗に関するサプライチェーン部門の技術チームと定期的に働いている。

## ii) アクターの役割の分析

プロジェクトの登場と拡大の過程は、市民的領域に属する。文化的アクターのネットワークと新農村人、レストラン、ホテル、農業者などがこれに関わる。政治的アクターも即座にこの行動に参画し、とりわけ公園設立に参加した。

プロジェクトのアクターは、政治的、市民的のみならず、技術的領域の資源を動員する。彼らの中で、行動の中心はもっぱら、技術分野のステークホルダーであり、とりわけ州アルデシュ山自然公園チームがそれである。

逆に、公園の文化的ミッションの担い手は、プロジェクトの登場とその拡大局面のアクターであった。その上、新農村人は都会での経験も豊富で、文化的知識とネットワークを動員した。彼らは村の祭りの芸術的介入を指揮するために彼らの持っている知識を動員したのである。

それが何であれ、アクターたちの軌跡の多様性、コンピテンスの領域の複数性、技術、政治、市民社会、これらの間に配置された特殊な位置、特定アクターが演じることのできるインターフェースの役割、これらが、プロジェクトのダイナミズムの中で強調される。個人的な軌跡のこうした関与が、集合的コンピテンスを創造することに貢献する。彼らの中で、幾人かは、ミッション担い手やアニメーター、NPO アクターのようなインターフェースの役割を演じるし、政治的な立場の地方議員もまた、技術資源を活用できる。

## iii) アクターとエンジニアリングの状況

「栗の高付加価値化」というプロジェクトは地域資源活用の真の行動であり、時間を通じてアクターを動員できる。手続き的側面よりも、共同構築の過程が勝っている。こうしてアクターのネットワーク化と知識の共有が、手続きや規則よりも優先される。こうした行動は、集合的コンピテンスの獲得行動として理解される。地域文化、栗栽培に関する古いノウハウ、栗の活用に関する地方文化、これらが文化的、美食的ネットワークと共振する。集合的インテリジェンスの構築が、異なったアクター（様々な職業やその個人的文化を有する）の結合により促進されることができた（公園のアニメーターによって結合された）。

エンジニアリングそのものも観察に値する。公園の制度的コンピテンスと公園のチームの技術的領域との間での整合性が存在する。こうしたエンジニアリングにおいて、技術チーム、栗サプライチェーンもしくは村の、より広範なエンジニアリングが、公園レベルで、相互関係にある。

強い地域的コンピテンスとネットワーク状の地域エンジニアリング（この同一地域での豊富な、学際的な）が、栗という資源を中心とした地域的ダイナミズムを促す要素である（Janin, Grasset, Lapostolle, 2011, p.82）。

#### （４） AOC ブルーチーズ Le Bleu du Vercors Sassenage の例

以下ではやはり Janin, Grasset, Lapostolle (2011)によりながら、ヴェルコールの AOC ブルーチーズ Le Bleu du Vercors Sassenage（以下、ブルーチーズと略）を例に IT におけるアニメーターの活動を紹介しよう

##### 1) 活動内容

Vercors 州公園のほうが、ブルーチーズ AOC « Bleu du Vercors Sassenage »の認定にかかる活動より先行していた。経済危機によって、消滅しつつある過去の遺産が、高付加価値化のために再び動員されることになったのである。すなわちそれがブルーチーズ bleu du Sassenage である。地方的伝統が断絶していたためにこうした資源の地域的獲得が困難なままであった。中世以来、Vercors 山脈に Bleu du Vercors-Sassenage の起源が求められるが、それが農業近代化の過程で途絶えてしまっていたのである。

Bleu de Sassenage に文化遺産的、経済的価値を再び与えようという意欲と関連した、プロジェクトの農場が、1990 年代初頭に開始された。あるリーダー的な農業者が、地域の牛乳のより良い付加価値を得ようという意欲に動かされて、州自然公園内の最初の AOC の創出のために、bleu de Sassenage を動員することを提案した。すなわち、ツーリズムの魅力と、都市への近さが、この事業の成功を保証していると思われた。最初の拡大において、70 人の生産者がこの新たなプロジェクトに結集し、この地方チーズ（数十年にわたり忘れられていた）の品質表示の行動を始めた。

アクターたちはプロジェクトの発展のために組織化され、農業者たちは組織され、1993 年に Bleu du Vercors 保護組合(SIVER)を立ち上げた。それは最初は、牛乳生産者しか含んでいなかった。牛乳製造のために組合は加工企業 Bennier によって支援された、これは、Villard-de-Lans 協同組合の所有者であった。農場産品については 4 人の生産者が、その研究を開始し、70 年代以降消失していたレシピを再び発案した。

公園農業者振興協会 APAP が、ハーフタイムでのアニメーターを確保しており、農業者の研修が組織された。農業者の一人がその施設をチーズ工房=試験場の建設のために貸した。小生産者グループが、グリュエールチーズ技術研究所 Institut Technique du Gruere のチーズ技術者とともにここで定期的に会合を持った。1995 年にはローヌアルプ州の農業普及統合プログラム PIDA が、SIVER と公園により支援されて、1997-2000 年の間に経営での加工施設設置を財政支援した。農場産 Bleu de Vercors Sassenage は、過去の遺産からインスピレーションを得た農民的イノベーションとして認めることができる。それ

は組織的構成要素（組合の設置）と技術的要素（製造工程管理）を伴っていたからである。

学習過程を通じて農場産品生産者は、最終製品と農地との結合を再創出することで、チーズを再獲得した。このことは、牛乳生産の事例には該当しない。彼らの農業実践は同一のままであり、彼らにとって製造と最終製品販売は企業に委ねられたままである。AOCは *bleu du Vercors Sassenage* として 1998 年に獲得された。チーズの歴史的名称は *Bleu de Sassenage* であったが、生産者たちはその生産場所の起源を想起させるために *Vercors* という名称を付加することを主張したのである。

最初の争点は、地方住民のみにチーズを取得させることではなく、生産者全体、とりわけ牛乳生産者により獲得させることであった。すなわち「我々は、われわれの地域で、チーズ文化を再創出しようとした。AOC には、地方アクターによる文化的領有が必要であった。我々はサヴォワ *Savoie* 地方の付録のような印象を持たれていた。産品もあるし、強いアイデンティティを持っていたのに」（*SILVER* のインタビューから得られた情報、*Nguyen, M. « Analyse comparée de processus d'activation de ressources territoriales » GIS Alpes Jura-PSDR, 2009, ただし Janin, Grasset, Lapostolle (2011), p. 83* より引用）。

公園とのパートナーシップの下で、いかにして振興がなされるかについて議論するために、複数の会合がなされた。最終的に、*Bleu* 祭りをおこなうことが決定された。この祭りの起源は、議論に満ちている。つまり、特定のものは、それは公園の考え方であるとし、別のものたちは、当時の *SIVER* の会長の考え方（*Bleu d'Auvergne* の祭りからインスピレーションを得た）であるとする。付け足しのようなのだが、論争は担い手と、展示の仕方の流れに影響を与えることになった。2001 年の最初の祭りが行われた。それは 2 日の祭りで、AOC 地帯のコミュンだけでなされた。祭りは毎年コムニオンを換え、*Isere* 県と *Drome* 県の間で交互になされた。

*SIVER* は、地域住民によるイベント、そしてチーズの生産振興のために、参加的アプローチを実施した。祭りの組織化は、受け入れコムニオンとの「共同ガバナンス」で実施された。祭りの中身は、公的な会合の時点で、住民全体と、民主主義的に決定され、作成される。プロジェクトのプレゼンテーションの後に、作業部会が、仕様書や、年次のテーマ、プログラム、装飾の作り物などを作成するために、ボランティアとともに組織される。すべての会合は、*SIVER* により促進される。祭りは、二日間で 1 万人を記録して成功している。それは、AOC にとって興味深い行動である。というのも、組合は祭りの後には売り上げが平均して 30% 増加しているからであり、農場産品チーズの在庫もすべてはける。他方で、祭りの発展は、AOC 地帯の全体においてチーズを承認させることに貢献する。*Villard de Lans* の観光振興協会 *ADT* は、これをテロワールの産品のシンボルとしている。

2 日で 1 万 5,000 人以上を記録したことで、この祭りは大規模なものとなった。公園にとって無視しえないほどの予算を示す、その組織化は、農業部門にとって、公園が正統なパートナーであることを示す機会となった。

## 2) アクターの役割の分析

プロジェクトに介入するエンジニアリングの観点からは、プロジェクトは存在するが、散在的で、むしろ散らばっている。つまり公園農業者振興協会 APAP の、ハーフタイムのアニメーターは、グリュエールチーズ技術研究所 ITG のテクニシャンと同様、連携の役割を果たす。しかしながら後者は、きわめて技術的に特化している。APAP のアニメーターがむしろ組織的役割において存在するのにたいし、ITG のそれは、プロジェクトのエンジニアリングの枠組みの中に介入する。現在、使用されているエンジニアリング手法は、徐々に発展しつつあり、公園のアニメーター（ツーリズムと農業）の関与、ブルーチーズの資源を、別の地域資源（景観や地形など）とよりよくコーディネートするために発展している。組合のアニメーションは、AOC 行動の最初の数年間は APAP により支援されていたが、次いで、ブルーチーズの祭りの組織化については公園により費用の一部が担われていた。組合のアニメーターは、その地位の曖昧さを示している。「曖昧というのではないが、私は、かなり公園の機構や活動のプロモーションのためのミッションも持っている」。こうして、ブルーチーズのサプライチェーンを支えるために共有化された手段と人員が、お互いの構造を混合している印象を与える。「我々には果たすべき役割があり、それは、ブルーチーズの高付加価値化に特化している。我々は公園とは無関係である。APAP と公園から来るブルーチーズがあるとしても、その独立性を守らなければならない。我々がシステムについてよく知らないならば、SIVER, 公園, APAP などの間で混同してしまう。歴史的には共通の手段、人員があったが、役割は同一ではない」（同上）。こうしたトラブルは、SIVER の独立性、サプライチェーンの問題を示している。Bleu du Vercors Sassenage のサプライチェーンは、地域によってよく支援されていると同時に道具化されている。他方、資源はまだサプライチェーンのアクターによっては領有されてはいない。結局、それが直面している多様な経済危機に直面して、その動員力はますます弱くなっている。「残念なのは、他の地域にチーズを知らせるために、ブルーチーズの生産者を動員できてこなかったことです」（同上、ただし Janin, Grasset, Lapostolle (2011), p. 87 より引用）。

## 3) アクターとエンジニアリングとの状況

地域ダイナミズムの資源において、このプロジェクトは、市民的領域から、本質的に農業的アクターを中心に登場した。別の生産者への急速な拡大、農場生産者によるノウハウの再獲得、祭りへの公衆の重要な参加（頻繁な訪れ）にもかかわらず、獲得レベルは不十分と考えられる。祭りと（農業と観光部門で公園が経験した）成功以外には、チーズの地域的獲得の兆候が見られない。高付加価値化のイニシアチブは、散発的で、部門的で、数もそう多くない。他方で、Nguen により実施されたインタビューでは、生産者の側の獲得＝適応の欠如と、AOC 保護組合の中での集合的行為の息切れがある。サプライチェーンが突き当たっている経済的困難の他に、獲得の欠如は、不連続でヘテロな地域的根付きにより地域的承認が制限されているものとして解釈することができる。行動は今のところ部

門的行動であり、それは、製品を真の文化遺産とはしていない（地域のアクターによる領有＝適応の不十分さのため）。この過程はしかしまだ中途段階であり、とりわけ公園と地方公共団体の関与の途中にある。

発展段階においてサプライチェーン支援は、1990年代の初頭以降、強力であった。公的アクターによるプロジェクトの統合と担い手は、ボトムアップの局面にあるとしても、それでも、微々たるものである。公園が関与しているが、地方公共団体は本質的に祭りの時にしか関与しない。アルデシュ山の栗のプロジェクトに対して、このプロジェクトは、コーディネーション局面を開始しているように思われる。この局面は、地方公共団体と公園のより強い関与を経ることになるに違いない（この資源の獲得を別のアクターと農業アクターに拡大させることで）。

アクターの個人的軌跡の多様性は、アルデシュほど強くない。というのも、プロジェクトの登場と発展に関与しているアクターたちは、本質的に農業的だからである。特定のアクターはその軌跡において都会的であるとしても、潜在的なネットワーク（とりわけ市民領域と結合した）は、それほど目立たない。事実、インターフェースをなすアクターたちはそれほど多くはない。なるほど、農業者たちは、そのアニメートする能力によって、市民的領域であると同時に、技術的な領域にいるとして考えられるが、付け足しに過ぎないままにとどまる。公園と地方公共団体のより強い関与が中期的に、結合されることで、政治的アクターの関与の欠如を相殺することができるし、別の領域のアクター（例えば観光や自然文化遺産）の欠如を相殺できる。こうした行動が延長されるならば公共活動により促され、促進されるネットワーク化が存在することになる。他方アルデシュ山では、それは経験とアクターのネットワークによりすでに存在していたのである。二つのケースで、強い技術的文化が、行動を促した。アルデシュ山については製品を中心とした知識とノウハウに関連していたが、チーズ作りのノウハウについては、農業と観光である。

## （５） 二つの事例から導かれる教訓

二つの事例において地域的コンピテンスに資する要素と関連した複数の解説格子を指摘することができる。上述の事例から以下のような教訓を導くことができよう。

- ・地域の過去の歴史、とりわけ地域文化の要素、行為とノウハウ、これらがプロジェクトに関連することができる。すなわち製品の歴史的な厚みがアルデシュ山と **Vercors** では強い。

- ・関与するアクターのパーソナルな歴史、とりわけ経験と教育の多様性、（そこから引き出される）潜在的なネットワーク。そこでもアルデシュ山の栗は、（個人的、集合的経験の多様性が、アクターのネットワークの中で見られるような）プロジェクトの好例である。これらの同じネットワークは **Vercors** でも濃密であるが、地域の外側にはそれほど開かれておらず、きわめて農業に特殊である。

- ・プロジェクトの最中でのアクターたちの役割と、とりわけインターフェースの地位にい

ることができるアクターたち。そこでもまた、アルデシュにおいて、すでに強調されたように、インターフェースの役割が最も顕著である。

- ・この責任を開放的に引き受け、市民的、政治的、技術的領域の関連づけのできるプロジェクトの担い手によるコーディネーション

エンジニアリングの状況とプロジェクトのダイナミズムの間の整合性が描かれる。ITが地域的ダイナミズムに位置づけられているようなプロジェクトが有望である。

境界線の間での均衡した状況が、地域的構築を促す条件であり得る。それは、エンジニアリングを動員し、ニーズの登場と市民的領域のプロジェクトの登場に依拠した地方政治局面を伴う。アルデシュ山は、あまり理想的な状況ではないが、集合的構築を促進する事例である。このような場合、そのエンジニアリングにおける手段は地域＝プロジェクトのレベルで位置づけられ、集められた技術的コンピテンスがプロジェクトの性格と、その構成において整合的である（ネットワーク化された組織的エンジニアリングにおける文化、ツーリズム、農業）。それはまた、地域の政治的領域と密接に結合し、プロジェクトのアクターのネットワーク支援に介入する。こうした相互作用の地域的中心が、シナジーを作り出し、地域外の貢献を統合することができる。このような状況において促進的な要因であると思われるのは以下の通りである。

- ・集合的コンピテンスと、プロジェクトの地域レベル（とりわけ公園の内部）での制度的コンピテンスとの間での整合性をもって組織された、ネットワークの頂点にある多様な学際的チーム。

- ・アクターを結合させることを重視する組織的エンジニアリングの存在。

- ・パートナー（とりわけ産品専門的な組織）によりもたらされる技術的、組織的エンジニアリングの形態、手続きの担い手（州のような）たる制度との、プロジェクトのパートナーシップ。

- ・アクターたちにより共同構築された、地域レベルで定義された戦略的参照基準と活動。

## （6）ブルゴーニュ州の4つのペイの事例

以下では、ブルゴーニュ州の4つのペイの事例を紹介しよう（以下は Mamadou, 2011 の要約による）。具体的にペイという空間で、アニメーターたちがどのような活動を行っているか、また彼らのプロフィールが明らかになるであろう。

ペイのアニメーターは、よく知られておらず、彼らのメチエは明確化されておらず、そのコンピテンスも今後、格付けられなければならない。今日 IT 概念が議論されている。地域のプロジェクトにおける専門知は、まずグローバル化し、それは、近接性の壁を超えて、内部的、外部的な専門知の二つの資源を結合させるようになっている。この場合、パートナーシップが鍵となるのである。プロジェクトを担うペイのチームは、地域のプロジェクトの運営にとって必要なコンピテンスすべてを持ち合わせているわけではない。このことは、地域にとって内的、外的な別の専門知に依拠することを意味する。こうした専門

知は、標準化された知識の生産から地域的知識の共同構築に至るまで多様である。そのメカニズムは、ここでは、地域のプロジェクトに関与する様々なアクターたちの地方的配置に依存する。ペイの地方レベルでのその動員が、グローバルとローカルの間、遠距離と近接性の間での関係の争点をなす。標準化の方向へと押されながらも、同時に真の社会実験に飛び込んで、新しい専門知は、科学的、行政的なコンピテンスの領域を占め、媒介の領域を占めている。

## 1) 背景と主題の枠組み

### i) 問題設定と分析枠組み

「プロジェクトの地域」として認められているペイは、公共政策の地域化へと収斂する装置である。それは、地域振興整備に関する参加型で交渉された具体的な活動の実施を可能とする。ペイは、一般的にディレクターと様々なミッション担い手（意思決定機関により決定された活動を導く）、すなわちアニメーターとからなる技術チームを付与されている。こうしたアニメーターはあまり知られておらず、その職業的軌跡、その教育資格、そのメチェの姿、そのコンピテンス、その実践は、多くの特徴を持っているが、あまり知られていないのである。

ペイは、コーディネーションとインセンティブの複数のレベルを示している。すなわち、国、地方公共団体、農業会議所、農業職能団体 OPA などである。ペイのチームが行う地域のプロジェクトは多数あり、多様である。その執行は多様なコンピテンスを要求し、これはしばしばチームの中では入手可能ではない。こうしたチームが必要とする外部の機関は、農業会議所であったり、NPO であったり、地方公共団体やコンサル会社であり得る。

Mamadou (2011)の研究はブルゴーニュ州の TERAGRI（国立農学研究所 INRA などが専門知を提供している地域）に属する4つのペイ、すなわち Auxois Morvan, Nivrnais Morvan, Chalonnais と Puisaye Forterre を対象とし、その他のブルゴーニュ州のペイも比較のために扱う。

### ii) 調査の標本の内容

Mamadou (2011)が調査した標本について、TERAGRI の4つのペイにおけるチーム編成は以下のように、ペイによって異なる。

・ Pays Auxois Morvan は8人のアニメーターで1人はリクルート中でディレクター1人、ツーリズムアニメーター1人(女性)、Pays d'art et d'histoire のアニメーター1人(女性)、LEADER のアニメーター(女性)、「Auxois で自然に生産を Production Auxois naturellement」のミッション担い手1人、LEADER 運営者 gestionnaire(リクルート中)、ミッション担い手 TIC, Pays d'art et d'histoire のアシスタント1人(女性)(計8人)である。

・ Nivernais Morvan では4人のアニメーターしかおらず、1人のディレクター(女性)、農業のミッション担い手1人、都市計画住宅のミッション担い手(女性)、LEADER のアニ

レーター 1 人(女性)である。

・ Pays chalonnais では、5 人のアニメーターがおり、1 人のディレクター、1 人の秘書、LEADER のアニメーター 1 人(女性)、ツーリズムと文化のミッション担い手 1 人、LEADER 管理人 1 人である。

・ Puisaye Forterre では、ディレクター 1 人(女性)、秘書 1 人、ツーリズムのミッション担い手 1 人(女性)、LEADER のアニメーター 1 人 (女性)、コミュニケーションのミッション担い手 1 人、リーダー管理人 1 人、気象エネルギープラン Plan climat energie プロジェクト部長 1 人、Natura 2000 のミッション担い手、サービスと管理のミッション担い手 1 人(女性)、社会福祉と住宅ミッション担い手 1 人(女性)、RAM のアニメーター 1 人(女性)である。

なお Mamadou (2011)がインタビューしたアニメーターは以下の通りである。

第 3 表 パートナー機関とアンケートしたアニメーター

ペイ機関	該当機関	聞き取りしたアニメーター
Pays Chalonnais	農業会議所 71 Macon	多角化の普及員
	SAFER71	県ディレクター
	CERD	ディレクター(女性)
Pays Auxois Morvan	農業会議所 21	多角化の普及員であり、「農場へようこそ」責任者
Pays Nivernais Morvan	農業会議所 58	プロジェクトの担い手支援責任者であり、振興アニメーター、農業会議所研修センターの責任者
	農業会議所 58	地域振興の担い手、地域に関するハーフタイムでの普及員、アニメーター
	州モルヴァン自然公園	農業ミッション担い手
	Chateau Chinon 高校	校長(女性)
	CERD	ディレクター(女性)
Pays Puisaye Forterre	農業会議所 89	都市計画での普及員

出典：Mamadou (2011)

Mamadou (2011)はペイごとに、3 人のアニメーター(ディレクター、LEADER アニメーター、ミッション担い手)を潜在的に標本として持っていたが、ブルゴーニュ州の「非 TERAGRI」の 13 のペイについて 24 人のアニメーターの標本抽出を行っている。質問票は 1) アニメーターの特徴、2) その機能、3) 地域振興アニメーターのメチエ、4) 協力ネットワークであり、24 の質問票送付に対して、14 の満足しうる回答が得られている。こうして TERAGRI のペイで、10 人のアニメーターに調査をかけ、結局、全体として 24 人の標本が得られている(10+14=24)。

・分析の読解基準としては、アニメーターの人格的特徴とそのメチエ、協力ネットワーク



と専門知である。パートナー機関のアニメーターの分析は、3つを軸としてアニメーター、サービスとミッション、介入領域、協力様式、専門知が調査されている。

## 2) ネットワークと調査分析

### i) 地域振興アニメーターとそのメチエ

実施されるメチエに関して3つの基準がある。1) アニメーターにより担われる機能と活動。2) メチエに与えられる意味、彼らの役割、彼らの職業的コミット。3) 地域振興プロジェクトをうまく導くために必要な性向とコンピテンス、である。

① 特定のメチエ機能に資する彼らの日常課題。これは5つのカテゴリに分類される。

1) 行政管理, 2) アニメーションとコーディネーション, 3) コミュニケーション, インフォメーション, 動員, 4) 政治的方向付け, 5) 調査, 知識の生産

② アニメーターの役割。アニメーターが自らのメチエに与える価値と正統性である。

③ 職業的コミットと非職業的コミット

④ 必要な主たる性向とコンピテンス

第4表 ペイのアニメーターの個人的特徴

ポスト	年齢階層					性別		計
	25未満	25-30	31-35	36-40	40以上	女性	男性	
プロジェクトミッション担手		3	2	1	1	3	4	7
リーダーのアニメーター		3	1	1		4	1	5
ディレクター	1		8	2	1	5	7	12
計	1	6	11	4	2	12	12	
総計	24					24		24

出典：Mamadou (2011)

標本では31-35の年齢層が多く、男女半々である。

第5表 学歴資格

レベル	質問票	聞き取り	計
大学入学資格 Bac	2	0	2
Bac+2 ないし 3	1	2	3
Bac+4,5,ないし 6	10	8	18
Bac+8	1	0	1
総計	14	10	24

出典：Mamadou (2011)

ペイのアニメーターは高い教育水準を持ち、24人中18人が大卒以上の資格を持っている。高卒者は2名のみである。

ペイでは人の出入りが著しく、5年以上現在のポストにとどまっているのは24人中7人にしか過ぎない。3年未満のものは、ほとんどがミッション担い手か LEADER アニメーターである。LEADER アニメーターに関しては、2008年にプロジェクトが最近、採択されたことにより、勤続年数の短期さが説明される。

第6表 勤続年数

ポスト	ポストでの勤続年数				
	2年未満	2-3	3-5	5年以上	計
プロジェクトのミッションの担い手	1	4	2		7
LEADER のアニメーター	2	2	1		5
ペイのディレクター		3	2	7	12
計	3	9	5	7	24

出典：Mamadou (2011)

## ii) 地域振興アニメーターのメチエの特徴

Mamadou (2011)は、アニメーターの主たる6つの機能と、5つの活動を同定している。

アニメーターの機能は第7表に示してあり、Mamadou は、アニメーターに対して、第1位から第6位まで、労働がさかれる機能に応じて階層化するよう依頼した。表は調査したペイのアニメーターを示している。アニメーターたちは、まずアニメーション、構想のエンジニアリング、政治的エンジニアリングを最も重要な機能と考えていることがわかる。第二位となると、構想のエンジニアリングやアニメーションがなお支配的である。ここで評価されるアニメーションとは、プロジェクトの担い手の支援に関するアニメーションであったり、機関(振興委員会、運営員会)におけるアニメーションである。アニメーターにより評価される構想のエンジニアリングとは、活動を創出するための川上での作業であり、それはプログラミングであり、政治的エンジニアリングとしばしば重なっている。アニメーション、構想のエンジニアリング、政治的エンジニアリングが今日、ペイのアニメーターの最初の機能であり、これらは、本質的に地域のプロジェクトの計画段階で登場する。これらは、一般的に、運営委員会の中で、農業作業部会、あるいは議員との会合の中で展開する。実行のエンジニアリングは第3位から第5位に属する。それは、アニメーターにおいてかなり周縁的な位置を占める。それは、活動の実施段階と関連している。この表でわかる結果は、構想のエンジニアリング、政治的エンジニアリング、アニメーション(その目的は、プロジェクトを登場させることであり、財政支援を探し当てて来ること、実施の支援である)の圧倒的な地位である。これらの機能は、アニメーターに対して行政的で手続き的な課題を行うように促す。こうして Mamadou は、アニメーターに対して、日常

経験において、課題の観点について質問した。それは、機能との関連づけを行うためである。

第7表 アニメーターの機能（第1位から第6位まで）

	分類 x人/24						計
	1	2	3	4	5	6	
アニメーション	11	6	3	4	0	0	24
構想エンジニアリング	9	9	2	0	1	0	21
実行エンジニアリング	0	1	8	0	8	2	19
政治的エンジニアリング	6	3	2	5	2	1	19
仲介	1	1	4	7	2	4	19
コミュニケーション、情報、働きかけ	1	4	2	5	5	6	23

出典：Mamadou (2011)

こうして振興アニメーターの5つの課題が同定される。1) 行政的課題、財務的課題、プロジェクト管理。2) コーディネーションとアニメーションの課題。3) 内部での政治的方向付けの課題。4) 調査、知識生産の課題。5) コミュニケーション、働きかけ、情報。これらの5つの課題の中で、Mamadouはアニメーターに対して、それぞれに向けられる労働時間の割合の観点からこれらを評価してくれるよう、要求した。しかしながら、質問票によるアンケートで、一人のアニメーターが課題について記載していなかったために標本数は23となっている。

その結果、上述の課題1と2が、アニメーターの労働時間の最も多くを占めている。23人中15人が、これらに平均、それぞれの課題について労働時間の32%を支出しているのである。行政的、プロジェクト管理の課題においては、個人的データを照合する限り、プロジェクトのミッション担い手(LEADERプロジェクトと、その他)がトップに立つ。というのも彼らはその活動時間の50%を振り分けているからである。課題3の「内部での政治的方向付け」も、無視し得ない。平均して12%であるが、最初の二つのカテゴリほどには関わらない(23人中9人)。課題4「調査、知識生産」もまた無視しえない労働時間を占め(平均10%)、少なからぬ割合のアニメーターに関与している(13人)。カテゴリ5「情報、働きかけ」は労働時間の観点からは平均11%であるが、より多くのアニメーターが関与している(20人)。

Mamadouは、機能と課題に関する様々な結果から、ペイのアニメーターにとっての4つの活動プロフィールを描き出す。

(a) 「行政的もしくはプロジェクト管理」：アニメーターの活動の最初のカテゴリに対応し、平均して労働時間の32%を占める。この労働はとりわけプロジェクトのミッション担い手(リーダープロジェクト、その他のプロジェクト)に関わる。

(b)「アニメーションとコミュニケーション」：これは第2のカテゴリと第5のカテゴリを結合させる(それぞれが労働時間の平均43%を占めている)。この労働はほとんどすべてのアニメーターに関わる。

(c)「政治的」、「意思決定支援」：これは第3のカテゴリに対応し、労働時間の平均12%を占める。少数のアニメーターに関わり、ディレクターや、(ディレクターと密接に労働する)数人のミッション担い手に関わる。

(d)「専門家」：第4のカテゴリに対応し、平均10%の労働時間を占める。やはり、ディレクターとミッション担い手に関わる。

### iii) ペイ機関のアニメーターのコンピテンス

二つの調査を通じて、アニメーターたちは、24人中22人が自分をジェネラリストであると答え、彼らのメチエの多能性を確認させてくれる。2人のみが自分をスペシャリスト(公共財政、コミュニケーション)と考えている。

それでは、アニメーターたちのコンピテンスはどのようなものであるだろうか。

彼らのコンピテンスを同定するために、Mamadou は、ローヌアルプ州地域経済振興職業協会 ARADEL により作成された地域振興職業のコンピテンスの参照基準を活用し、6つのコンピテンスを識別している。

#### (a)アニメーションのコンピテンス

このコンピテンスにおいて、アニメーターは集団のダイナミズムを登場させる。彼らは交渉者の役割を演じ、会合を導く。彼らは、コンフリクトに満ちた状況において仲介役を演じ、アクターたちを関連づけ、地域的プロジェクトの行動枠組みの中で、住民や様々なアクターたちとの協調の会合を動員しアニメートする。こうしたコンピテンスは、プロジェクトの上流で行われ、計画段階で行使される。

#### (b)意思決定支援のコンピテンス

このコンピテンスにおいて、アニメーターは、議員に対して、プライオリティを決定し、確立させることを支援する。彼らはベンチマーキングを行い、次いで、自らの分析に基づいて、状況に見合ったオペレーショナルな提案を作成する。こうしたコンピテンスは、政治的方向付け(議員との会合の対象となる)において適用される。

#### (c)プロジェクト運営のコンピテンス

このコンピテンスにおいて、アニメーターは、プロジェクトを定義し、プロジェクトの裁量を確保する。彼らは、運営のためのコンピテンスを同定し、プロジェクトに必要な技術的、財政的、人的なパートナーを絞り込み、組織化し、また財政資源を動員し、接合する。彼らはプロジェクトの財政的、行政的エンジニアリングをフォローし支える。彼らはプロジェクトについてのコミュニケーションを保証し、プロジェクトを地域に統合し、作業方法を定義する。こうしたコンピテンスはプロジェクトの以前に、またその実施の最中に行使される。

#### (d)調査のコンピテンス

この領域では、アニメーターたちは、診断や、調査のための仕様書を作成する。こうし

たコンピテンスを、彼らは自分たちだけで付与することはできない。彼らは、しばしば技術的パートナーにより支援される。彼らは、データやベンチマーキング(別のところで行われていることを参照しつつ)をしながらコンピテンスを産出する。この分野ではインターネットが大きな支えになる。アニメーターたちは意思決定と行動のために出資者による調査の同意を取り付けることができる。地域について入手可能な情報から、アニメーターたちは、中期長期の展望シナリオを定式化するための傾向と争点を同定する。アニメーター番号 A6 がいうように、「プロジェクトの考え方が、議員たちにより発せられると、我々技術チームは、議員たちにシナリオを提示するべく、プロジェクトを詳細に分析する」。このコンピテンスにおいて、アニメーターたちはほとんど診断の作業は行わず、しばしば別の介入者（コンサル会社など）に委託されることが指摘されている。

#### (e) コンサル支援のコンピテンス

このコンピテンスにおいて、彼らは、プロジェクトの担い手のニーズを分析し、技術的、財務的、方法論的な支援のために専門家と担い手を仲介する。彼らは自らのプロジェクトの様々な段階で、アクターたちを支援するために信頼関係を創出する。彼らは、地域の一般的な利益の中へとアクターたちのプロジェクトを統合する。A1 が言うように「多角化への投資のプロジェクトの担い手が私に声をかけるとき、私は、技術支援のために経営多角化研究センター CERD や農業会議所のような専門機関に彼らを送る」。

#### (f) コミュニケーションのコンピテンス

ここでは、アニメーターたちは、コミュニケーションのプランを作成し、実施する。専門目標を実施し、問題設定の意味を深め、相手先にこれをアクセス可能にさせるための要約した情報を作成する。A9 がいうように、「議員たちは多くの責任と多くの処理すべき問題を有している。所与の時点で、我々は、制約を取り除くようにさせるために彼らを支援する。こうした制約を取り除かなければプロジェクトは存在しない。アニメーターは聞き方を知り、翻訳の仕方を知り単純化の仕方を知らなければならない。もしある議員が、自分の地域には多くの住民がいるが、公共サービスを持っていない、と私に語るとすると、私は、以下のように展開させる。もし公共サービスをあなたが欲しいなら、作ることができます。他ではこんなことをやっています。費用はこのくらいかかります。どんなコンピテンスが必要となります」と。

#### iv) アニメーターに必要な主要な性向

プロジェクトを運営する上で、アニメーターには 5 つの性向が必要である。最初の二つは、「聞き方を知ること、理解すること、行動の仕方を知ること」と「同時に複数の案件を管理する能力を持つこと」である。こうした性向を指摘するのは 24 人中 13 人である。第三の性向は「他者を巻き込む能力を有すること」で、第 4 は「距離をとって状況を分析することができる」(24 人中 7 人)。一人が「すべての知識、すべてのノウハウを有し、一人で何とか難局を乗り越えること」をあげている。

#### v) 補強すべきコンピテンス

Mamadou は、アニメーターが補強したいと望むコンピテンスについて 4 つを指摘して

いる。最初のタイプは、「行政的、財政的管理のコンピテンス」である(24人中3人)。すでに多くのものがこれを掌握しているようである。第二のコンピテンスは「プロジェクト及び会合のアニメーション」で、これもすでに掌握されている。第3のコンピテンスは「関係的管理と説得する能力」で24人中5人である。アニメーション技術のように、「技術的アプローチ、特定領域での専門特化」は24人中9人である。

#### vi) メチエに与えられる意味

メチエには三つの意味がある。最初の場合では、アニメーターはある装置を働かせ、プロジェクトを登場させることという論理にあり、彼は、予算を管理し、プログラムに充てられた財政予算を消費することに気を配る。24人中8人がこうした意義づけを与えている。第二のケースではアニメーターは現場のニーズに耳を傾け、アクターのイニシアチブを登場させ、ペイないしLEADERプロジェクト措置にこれらを統合する(24人中11人)。第3の場合、アニメーターはペイのプロジェクトの担い手である議員のアシスタントとして自認している。アニメーターは議員たちの政治的方向付けを展開し、具体化する。議員との協力が自らの主要な配慮である(24人中5人)という。

#### vii) アニメーターの役割

アニメーターたちがペイの中で演じている役割について、Mamadou はアニメーターに質問している。結果として、主に三つの役割があるという。最初の役割は、アニメーターの中でもっとも共有されており(24人中17人)、それは「振興活動を適用するために、議員と現場アクターとの間の仲介、伝達役」である。第二の役割も多く(15人)、「プロジェクトのスターター、補助金の探索、プロジェクト担い手の支援者」である。最後のそれは、ディレクターに特殊な役割であり(8人)、「ミッション担い手と結合し、地域の整合的なプロジェクトを構築するために、地方議員の背後でオーケストラの指揮を執る」というものである。

#### viii) アニメーターの4つのプロフィール

こうして結局のところ、アニメーターたちについて4つのプロフィールが得られる。

(a)「管理者としてのアニメーター」：このアニメーターはプロジェクト様式に従って装置を管理し、財政的、行政的仕組みを確保する。彼は、プロジェクトの運営のコンピテンスを動員する。彼は、行政的作業に時間の32%をさいている。彼らの活動における行政的作業は、彼らを「官僚的」にさせ、現場から遠ざける。彼は、財政的パートナーの対話相手であり、この立場により彼らは、技術チームの中で特定の立場を与えられる。

(b)「コーディネーターとしてのアニメーター」：

このアニメーターは、現場の希望に耳を傾け、これをペイやLEADERプロジェクトの中に統合させようとする。この立場によって彼らは、会合の運営やグループのダイナミズムの登場、様々なパートナーのコーディネーションを促す。こうした活動に、彼らは労働時間の32%を費やす。

(c)「解説者、コミュニケーターとしてのアニメーター」：彼らは、議員を補佐し、彼に意思決定を説明するに必要な情報を提供する。アニメーターは、政治的作業を導く議員を

支援するのであり、この活動が平均 26%を占めている。

(d)「専門家としてのアニメーター」：ノウハウを与えるために解決策を求める。彼らは種別的な知識を生産する。この作業には労働の 10%がさかれる。

#### ix) メチエの進化

A6 が言うように、「私たちのメチエは、ネットワークのアニメーションとアクターたちの関連づけ、プロジェクトの登場、現場主義でした。でも欧州プログラムとともに、今日、多くの行政実務、多くの報告書、多くの要約、多くの理由付けが必要となっていますが、現場からは遠ざかり、アニメーションも減少し、ネットワークも減少しています。私たちの市町村共同体レベルの同僚たちもそう言っています」。要するに文書管理の比重が増加しているのである。

### 3) 動員されるネットワークと専門知

Mamadou はそれぞれのペイのアニメーターが動員する協力ネットワークについて詳細に説明しているので、紹介しておこう。

ペイを構成する機関と、こうした協力を必要とするテーマについて知るために、ペイのアニメーターの協力ネットワークが識別された。彼らはどのように、全体として働くか、協力形態の多様性はどうか。TERAGRI の 4 つのペイにおいて 8 つの「パートナー機関」が識別された。非 TERAGRI の 13 のペイでは、8 つがパートナー関係について答えている。こうして 12 のペイについての協力ネットワークについて情報が得られた。

協力機関はペイに応じて異なる。その中で、Mamadou は、すべてのペイに共通する分母を見だし、それを「優先的な、もしくは伝統的なパートナーシップ」と呼ぶ。これは、国家や州議会、県議会、農業省・国土交通省の合同県出先機関 DDT、農業省州出先機関 DRAAF と欧州からなる。DDT と DRAAF とが、LEADER プロジェクトを抱えるアニメーターにとっての最初の協力者である。これらは、申請書類の審査に介入し、プログラムを調整する。一般的に、このグループは入手可能な様々な基金(リーダープロジェクト、国家基金など)を通じてプロジェクトの財政支援のために動員される。これは、コンサルによる技術支援をあてにできる。ペイは、これらの機関とは合意されたパートナーシップの取り決めはないが、財務をめぐる取り決めが、契約的文書をなしている。

この共通のグループの外側で、ペイのアニメーターは 4 つのタイプのパートナーを持つ。地域に存在する NPO、農業職能団体、地方公共団体、遠く離れたコンサルタント会社である。

#### i) Pays Auxois Morvan とその協力ネットワーク

このペイにおける農業活動、とりわけ「Auxoi 生産を自然に促進する」に関心が向けられる。このペイのパートナーシップはこの活動を軸にしている。この活動の多くは LEADER プロジェクトにより負担される。この活動ではアニメーターにより動員される

主たるパートナーは、モルヴァン州自然公園 PNR Morvan と、コートドール cote d'or 県、サオーヌ・エ・ロワール Saone et Loire 県の二つの農業会議所、自営業会議所、商工会議所である。こうしたパートナーは、活動を実施するために動員される。Saone et Loire 県農業会議所は牛肉の仕様書を作成するために動員され、PNR や商工会議所は、活動のアニメーションのための支援を与えた。これらの機関における地域アニメーターの存在が協力を促進した。これらの機関は、ペイ Pays とは契約取り決めを行っていない。Cote d'or 県農業会議所については、経済データの交換について合意書が存在するが、それほど強い関与ではない。同会議所は、ペイの地域にアニメーター持っていない。内部的には、アニメーターたちは、ペイの機関（振興委員会、運営委員会）と働いている。また彼らは特定の農業者議員の農村世界の完全なノウハウと知識に依拠している。アニメーターたちは、コミューンの同僚たちと意見交換する。

例えば、このペイのアニメーターたちは、NPO の Alterre Bourgogne やペイのネットワークのような機関と仕事をする。Alterre は Auxois naturellement を中心としたコミュニケーション活動や動員について協力する。ペイのネットワークは、経験の交換や情報探求のために使われる。アニメーターたちの、こうした機関との協力は、その時々のものであり、合意文書となっていない。アニメーターたちにより指摘される困難の一つは、プロジェクト申請の審査(DDTによる)にかかる遅さである。

## ii) Pays Nivernais Morvan とその協力ネットワーク

### (a)地域の NPO, 地方公共団体, Chateau Chinon 農業高校

このペイでは、地域の NPO が専門的なコンピテンスを付与されている。インターネット情報機器の使用におけるノウハウのための NPO がある。これは農村優良拠点 PER プロジェクトのペイのコンピューター経済と関連している。これは国による基金である。

### (b)地域の農業, 非農業職能団体

農業多角化調査資料センター CERD, ニエーヴル Nievre 県農業会議所, Nievre 観光振興協会, モルヴァン州自然公園 PNR du Morvan がある。公園が LEADER プロジェクトの優先的パートナーである。農業部門では、県議会や議員が協力者である。CERD や農業会議所がこのレベルで存在している。地域にある機関とのこうした協力により、アラカルトな協力が可能となる。例えば、『『草地の中のピクニック』と呼ばれる 1 日のピクニックの組織化を通じて、農業者のメチエの促進』行動を導くために、アニメーターは農場について農業者の意見を聞き、これを、現地のパートナーたちの支援を得て、これを翻訳し、行動を定式化する。このプロジェクトの考え方を具体化するためにアニメーターは、財源を見つけ出し、公園のリーダーと交渉し、プロジェクトの同意をとりつける。次いで、行動を実施するために、農業者の研修が必要であり、組織化するためにアニメーターは農業会議所と意見交換する。コミュニケーションと動員をしなければならないときアニメーターは Morvan terroir に頼る。ツーリズム行動において、アニメーターはツーリズム振興機関を動員する。こうした協力はアドホックであり、取り決められているわけではない。

CERD は、多角化と直売の問題に注目している。農業会議所がこの領域に動員されるこ



ともある。ここではアニメーターは、必要に応じて、プロジェクト担い手をこの二つの機関（地域にあり、技術支援を行う）のいずれかに差し向ける。このタイプの協力は機会主義的であり、それは、その場その場のニーズの存在にしか依存しない。それは、場当たりので、定式化されていない。Cote d'or 県農業会議所とは異なり、Nievre のそれは、Pays Nivernais Morvan の地域に支所を置いている。しかしながら、このことは、この二つの機関の間での緊密な協力を可能としなかった。機関の専門知の狭さが、地域での会議所の支所の存在にもかかわらず、協力の弱さについて説明してくれるかもしれない。PNR du Morvan のような機関との協力はしばしば共通の利益となる。PNR は、活動を実現するためにペイのアニメーターに働きかける。例えば、「地方製品の販売ネットワークの実施に関する事前調査と支援」と題する調査の公募をかけるために、このプロジェクトを担当する PNR のアニメーターは、仕様書作成のためにペイのアニメーターたちを動員した。またも公園により担われる気象エネルギー計画プロジェクトについて、気候変動への適応の側面で、このプロジェクトを担当する公園のアニメーターは、ペイのアニメーターと協力する。

#### (c)外部での協力機関

Nivernais のペイのアニメーターたちは、地域からかなり離れた外部の調査会社やコンサルタント会社（しばしば非農業系）と協力する。こうした外部のサービス給付（DESIGNRS と NPO の「27 番目の州」）は、「知識の協力」及び「将来の Corbibny にどのような農村の駅を」のようなプロジェクトをレイアウトするのを支援する。

#### iii) Pays Chalonnais とその協力関係

このペイは Saone et Loire 農業会議所や CERD, 土地整備公社 SAFER71, 職業的統合促進協会 AFIP, 連帯経済実験協会 ACTIVE, Fontaine 農業高校, 県機械利用協同組合連合会 FDCUMA のような職能機関の存在とネットワークを持っている。

このペイは、そのリーダープログラムの中に農業活動を含んでおり、それが、様々な機関との協力の基礎にある。これらの活動は以下である。SAFER71 と農業会議所とが協力する農業観測の実施、直売の振興（団体給食、鶏の集団的処理施設、これには農業会議所と CERD とが関与する）である。これらの機関との協力は取り決めされており、金銭の支払いもある。それは、公募の対象となっており、これらの機関が採択されたのである。AFIP は直売に関する研修の組み立てで、協力した。FDCUMA は CUMA により担われる集会的鶏処理施設について協力する。ACTIVE は、地域についてのその知識を頼りにされる。農業高校は、自らが発起人になっている集会的鶏処理施設のプロジェクトについて協力する。

地域の外側では、ペイは、上述の作業に関する公募について地域振興資源センター EDT に知見を仰いだ。調査会社とは都市計画について協力している。

#### iv) Pays Puisaye Forterre とその協力ネットワーク

このペイは、以下の外部機関と協力している。調査会社（EXPLICIT, Inter face de Toulouse, ETD), 環境省外郭団体 ADEME, Alter bourgogne である。地域内部での協力については、Yonne 県自営業会議所, 地域の NPO, POLETICH, 市町村, である。ペ

イの活動はそれほど農業に向いていない。それでも、気象エネルギー計画では関連する。「保育師支援連携 RAM」と呼ばれる住民支援サービスの地域での実施、若者と、若者の統合のための施設についてのリーダープログラムなどである。

EXPLICIT はパリの調査会社である。それはペイのために、「経済整備地域スキーム」についての展望調査を実施した。この調査は公募制で行われた。Inter Face は、トゥールーズにある調査会社であり、「温室効果ガスの診断」の調査を実施するために選ばれた。これも公募制でなされた。地域振興資源センターETD は、上述の調査会社に委託される作業の実施に関する公募を流すために依頼された。ADEME「環境及びエネルギー管理エージェンシー」は技術的、財務的パートナーであり、これが、温室効果ガス診断の調査の仕様書を作成するのを支援した。Alter bourgogne は、この領域についてのその知識を与えることで「温室効果ガスの診断」調査のための仕様書の作成のために協力した。

この地域の内部では、ペイは、ヨンヌ Yonne 県自営業会議所と協力している。ペイはこれに「地域での商業サービススキームの調査」を委託した。この組織はペイによって、伝統的なパートナーと考えられている。このためにこの機関は経済整備地域スキームの調査の仕様書を作成した。この会議所に与えられた調査については、公募ではなかった。それはすでに実施されていたこの地域の同様の調査のアップデート化だったからである。POLETCH は、この地域に作られた NPO である。それは、情報コミュニケーションに関してペイと協力する。

アニメーターたちの協力ネットワークの中に、Yonne 県農業会議所の場合がないことが指摘される。これは、もはや地域でのアニメーション活動を行っていない。A7 が言うように、「3年ほど前までには地域に農業会議所のミッション担い手がいた。彼は様々な行動で農業者たちを支援するために派遣されてきた。残念なことに、ペイに存続することができなかった」。農業会議所とペイとの協力は、会議所からのこのアニメーターの離脱に次いで中断されていた。このことが農業世界とペイとの距離を生むことになった。A7 が言うように、「我々の同僚の離脱に、地域は選択肢を持たなかった。地域にアニメーションがもはや無いのだから当然だ。農業世界とペイは疎遠になった」。

#### v) ペイの協力ネットワークとその機能

Mamadou (2011)は、4つのペイのパートナーと、その求められる専門知について、以下のようにまとめている(第8表)。

第8表 Pays TRRAGRI の協力ネットワークのまとめ

Pays Terragri	パートナー	合意文書有無	求められる専門知の性格
Auxois Morvan	州自然公園 PNR 農業会議所 21 農業会議所 71 商工会議所 Alter bourgogne ペイネットワーク	なし あり なし なし なし なし	プロジェクト Auxois Naturellement 実施支援 経済データの交換 牛肉憲章の作成支援 プロジェクト AN の実施支援 プロジェクトの広報支援 経験の交換
Nivernais Morvan	情報機器ミッション IXYONE 州自然公園 Morvan Morvan Terroir CERD 農業会議所 58 Agence Touristique 58 DESIGNERS コンサ 27つ目州（公的会社	ペイ契約 ペイ契約 無し 無し 無し 無し 無し あり あり	農村有料拠点「コンピューター経済」支援 地域での広報支援 LEADER 担い手 地域への働きかけ支援 プロジェクト担い手の技術支援 研修活動へのアドホックな支援 観光振興 プロジェクトのレイアウト 研修
Pays Chalonnais	Fontaine 農業高校 AFIP ACTIVE FDCUMA CERD 農業会議所 71 SAFER71 EDT	ペイ契約 ペイ契約 ペイ契約 ペイ契約 有り 有り 有り 無し	直売についての研修組み立て支援 団体給食についての共同メンバー 鶏の集団処理施設プロジェクト 団体給食についての需要調査 農業者側の供給調査 農業観測診断 公募の普及
Pays Forterre	POLETICH (NPO) Yonne 手工業会議所 EXPLICIT 調査会社 ADEME Inter Face 調査会社 Alter bourgogne EDT	ペイ契約 有り 有り 有り 有り 無し 無し	情報コミュニケーション支援 商業サービススキーム調査 「経済振興地域スキーム」調査 温室効果ガス診断への技術的財政的支援 温室効果ガス診断調査 温室効果ガスプロ仕様書作成支援 サービス給付への公募の普及支援

出典：Mamadou (2011)

さて、それではこれらの協力ネットワークはどのように機能するのであろうか。

とりわけ、ペイと県農業会議所との間の協力ネットワークにおいて、3つのタイプのパートナーシップが区別される。

- ・ダイナミックで建設的な協力。Saone et Loire 県農業会議所や SAFER, CERD とペイとの協力。
- ・より適切な機能を追求した協力。Nievre 農業会議所とペイ Pays Nivernais Morvan との関係。地域での近接性のアニメーションの実施による農業会議所の多様なイニシアチブが、成果を生むのに苦労している。農業会議所は、それほどペイに頼られていない。
- ・「後退」しつつある協力。パートナー的な地方振興作業のための柔軟性の欠如。当該の農業会議所は Cote d'or 県農業会議所と Pays Auxois Morvan との関係、Yonne 県農業会議所と Puisaye Forterre との関係である。ここでは、近しい農業職能機関が逆説的にも距離を置き、それぞれの問題関心が分岐している。

また Mamadou はペイの協力形態について以下の三つを区別している。

(a) フォーマルなタイプの協力は、二つの当事者の間での取り決めの契約を結び、報酬が支払われる。当該の活動は、しばしばアニメーターによって事前に定義された仕様書により公募される。こうした協力形態において、共通のミッションと作業方法が明示化され、関係も定義されている。ペイと仕事をする調査会社やコンサルタントがこのタイプである。農業職能団体のレベルでは、CERD, Saone et Loire 県農業会議所, SAFER71 もまたこの種の取り決めに Pays Chalonnais と取り決めている。この種の形態での作業は、お互いの利益から生じる。この種の協力は、当該のアクターたちの役割と権限を再配分する。ペイのアニメーターの役割は、フォローアップとコーディネーションに制限されており、他方、介入する機関のアニメーターは専門家の役割を演じる。共同作業は、会合を通じてなされる。そこでは、「専門家」アニメーターがその行動戦略を示し、協力の約束を与え、もしくはその作業結果を提示する。

(b) インフォーマルなタイプでは、協力は取り決められておらず、報酬を生み出さない。この種の中で二つのカテゴリを区別しなければならない。すなわち地域に存在する社会職能的 NPO で、ペイ契約に関与しているものと、いかなる約束、取り決めもしていない職能組織である。職能組織とペイとの協力は、純粋に自発的なコミットに基づく。Nievre 農業会議所と Yonne, Cote d'Or の各県農業会議所はある程度、このカテゴリに入る。フォーマルなタイプの協力ほどには、さほどダイナミックでないこの種の協力（定式化されたコミットメントを欠如している）では、ネットワークは伝統的なものに基づき役割や権限は定義されず共同作業はアドホックである。ペイのアニメーターは、一般的に「サービスの需要者」（情報探求、ノウハウの追求、経験の追求など）であり、動員されるアニメーターは、「サービス給付者」である。利害は必ずしも共有されず、このことが、サービス給付者のモチベーションを疑問視させる。この種の協力における優先的な作業手法はインターネットでのメールのやりとりや電話である。

(c) 最後に、特別の協力のタイプが示される。それはペイの内部での協力である（協調

の会合、振興委員会、運営委員会)。アニメーターは一般的にアニメーションの役割を演じる。A4 が言うように、「振興委員会の会合では、私が、ペイの技術チーム、何人かの委員会メンバー、とりわけプロジェクト実施とイニシアチブをはじめから働いてきた次長に相談してアニメーションを行います」。

結局、ネットワークがアニメーターに対して、様々な分野の専門家を探索するのを助けてくれる。実践の共有と活用のネットワークは、イノベーティブな行動のための共通知識を作り出す。

#### 4) 地域のプロジェクトにおいてアニメーターにより動員される専門知

次いで Mamadou は、専門知の創出におけるペイの論理に関心を向ける。換言すれば、コンピテンスを動員するためにどのように取り組むかを理解することである。とりわけ農業会議所と調査会社が注目される。ペイのアニメーターの協力ネットワークと適合的に、ペイのプロジェクトにおいて専門知が 3 つの空間で動員される。(あ) ペイに固有な地域に対応する空間、(い) 近い空間、(う) ペイから離れた空間、である。

空間 (あ) (ペイに固有な地域) では、専門知はペイ地域の中で動員される。ペイのチームの内部でか、その他の、その地域にある NPO であり、空間 (あ) と (い) は、近接性の空間を作る。県や NPO、地方公共団体、市町村連合のレベルの古典的な機関の介入の地域に対応する。空間 (う) は、遠い部門であり、ペイとの地域を接していない、調査会社などである。

専門知の配分において、古典的機関 (農業会議所, CERD, SAFER など) と調査会社とはどんな位置なのか。専門知の動員におけるペイの論理はどんなものか、Mamadou はそれぞれのペイについて、以下のように説明している。

##### i) Pays Auxois Morvan の事例

このペイは、空間 (あ) と (い) において強い。経営多角化と直売が良い事例である。専門知を動員する行動は、*demarche Auxois Naturellement* であり、これは A4 により担われ、彼は「この活動に専門特化している」。A4 は、情報収集や知識、自らのプロジェクトを導くためのアニメーション支援の論理に統合されている。しかしこの論理では、彼は様々な専門知資源を優先させる。最初の資源は州自然公園 PNR であり、これはより古い公園の登録商標を有し、仕様書について確実な経験を有している。この PNR を優先させるのは、このアニメーターにとっては、地域での二つの商標のコンフリクトに満ちた競合を回避するために、このパートナーと協調したいとするからである。第二の資源は *Alter Bourgogne* と会議所 (自営業会議所, 商工会議所) であり、それは仕様書とそれらの憲章を作成するための知識を求めるためである。彼は、広報のための支援も求める。Cote d'Or 農業会議所は A4 にとってはそれほど優先されていない。というのもこのペイではこの種の関係は彼だけに依存しているわけではない (別のアニメーターが農業会議所と関係を持

っている)。このアニメーターは、自らのプロジェクトに強いコミットメントを示し、その運営を優先させ、自らの協力者の選択に裁量の余地がある。彼はいつもパートナーとの協調関係を追求している。たとえば、このアプローチ **Auxois Naturellement** において、その運営委員会に農業会議所を関与させたいと試みている。こうして A4 は説明している。

「運営委員会には、ほとんど農業会議所の代表は来ていない。このことは、今日、会議所との合意文書を調印しなければならなくさせている」。ところが農業会議所は、むしろこのプロジェクトに慎重である。農業会議所の普及員はこのプロジェクトの妥当性に納得していない。彼は以下のように述べている。「**Auxois Naturellement** は、私には、それほどほどの行動だとは思われない。私にはやるべき仕事がたくさんあるので、この行動に時間を割きたくない」。しかしながら、**Auxois Naturellement** について情報とデータの交換について二つの機関の間で合意文書が取り交わされた。しかしその詳細については全く示されていないのである。

この **Pays Auxois Morvan** はこの **Auxois Naturellement** を通じて、近接性の専門知を優先させようとし、その資源を多様化させようとしている。調査会社は関与していない。農業会議所の専門知については、それは、このプロジェクトの運営において重要な位置を占めている。会議所の専門知を動員するという意欲において、このアニメーターは、**Pays** が位置している県の会議所に留まらない。彼は近隣の県の農業会議所の専門知にも頼る。たとえば肉製品について **Saone et Loire** の農業会議所により支援されている。

#### ii) **Pays Nivernais Morvan** の場合

これは強い地域的パートナーシップ ((あ) と (い) の空間) で、コンピューター経済プロジェクト **Mission Numerique** や **IXYONE** といった専門的コンピテンスを持った社会職能的 **NPO** を伴っている。このペイはそのチームの中に農業のコンピテンスを持っていないが、地域の機関に依拠している。A1 は以下のように語る。「ペイの議員たちは、農業のコンピテンスを持ったエンジニアを持たないことを選んだ。地域に介入してくれる機関が多くあり、我々のそれを動員することができる」。

とりわけ多角化や直売についての農業のプロジェクトでは、ペイは **CERD** に依拠する。**CERD** は、市場調査に関する技術支援や、技術コンサル、プロジェクト申請書の財務上の組み立てについて動員される。非農業活動では、ペイは **DESIGNERS** や「27 番目の州 **27eme region**」のような調査会社の専門知を受ける。このペイが **Nievre** の農業会議所の専門知を、その地域化されたアニメーションを通じて地域で自由にしうるにも関わらずにもそうなのである。農業会議所の知見が同意された希な行動を指摘できる。「草地のピクニック」という農場公開の組織化の例であり、農業会議所が研修の専門知を与えたのである。ここでは、農業活動はペイ契約ではかなり周縁的である。農業会議所の普及員は、こうした事実を認め、次のように述べる。「ペイ契約の戦略的軸は、厳密な意味での社会職能的活動に対して、ペイ契約の中ではそれほど重要性を与えていない。我々が直接的に農業分野で行っているもの、農業生産に対して、それは、優先順位に入っていないのである。というのも、ペイ契約の中に考慮されているものには別の優先事項がある」。このプロジェ

クトを担うペイのアニメーターの労働は、プロジェクトの担い手の方向付けの作業である。プロジェクトを担うアニメーターA1は、プロジェクト登場の役割に留まり、彼は技術支援を確保するのに、現場の支援機関に立ち返る。彼は言う。「プロジェクト担い手が私を訪ねてくるとき、私は彼を CERD か会議所に送る。それは技術支援の立地による。そこで、私はもはや支援に立ち入らない。支援を行うのは専門機関である。そのあとでは、私はそれほどの役割を演じない。申請書がどの段階にあるか、を知るだけであり、それは自然に進行する。というのも我々は CERD と働いているのを常としているから」。PNR はしばしば LEADER プロジェクトを通じて動員される。自然公園がその担い手だからである。この機関との交流はお互いにとって利益があるからである。公園は地域に向けたプロジェクトの担い手であり、気象エネルギー、直売における地方ネットワークなどがある。ここでは PNR は、仕様書の作成のために、また地域へのその連携役のためにペイのアニメーターに依拠する。Mission Numerique や IXYON といった社会職能的 NPO は、農業、非農業プロジェクトにおいて動員される。最初のもはコンピューター関連に特化しており、農村優良拠点 PER economie numerique(コンピューター経済)プロジェクトについて動員される。第二のそれは、コミュニケーションに特化しており、「草地の中でのピクニック」といった農場公開の組織化としてのコミュニケーション活動に動員される。観光振興機関もツーリズム受け入れプロジェクトについて動員される。アニメーターたちは、農業高校の技術支援について指摘していない。ただし、ペイのディレクターは、青年の研修プロジェクトについての計画の段階で農業高校の技術支援を仰いだという。

こうした図式において、Mamadou は、「アラカルトなコンピテンス」動員の論理に言及している。その唯一の決定要因は、ペイ契約に採用された活動の性格である。活動が農業的であれば、それは地域の農業職能機関の関与を促す。結局、このペイでは、地域の、もしくは近場の専門知をよりよく活用しようとする。ここから地域に存在する農業職能機関、CERD の占める役割の重要性が出てくる。調査会社はアドホックに使われ、近場の機関に専門知がないことにより正当化される。

### iii) Pays Chalonnais の場合

このペイは、地域でのパートナーシップが強い。ペイ契約では、LEADER プログラムの中に、多角化と直売振興の農業活動が統合されている。これらの活動は、地域にある農業職能機関とのパートナーシップの実施を可能とする。当該の活動は、集散的鶏処理施設であり、これには、Saone et Loire 県農業会議所が動員される。団体給食には、農業会議所と CERD が動員され、農業観測には、SAFER71 が動員される。この種のパートナーシップではこれらの機関が自らの専門知を結合させるために同盟関係を作り上げる。農業会議所、CERD、SAFER71 は全体として、団体給食に取り組む。CERD は団体給食レストランに対して需要調査を行い、農業会議所は、農業者の供給能力の調査を、SAFER は農業観測、すなわちその診断を確保する。この種のパートナーシップは合意文書を取り交わし、報酬も支払われる。それぞれのパートナーは、合意文書において、適切に定義された専門知を提供する。このようなシステムにおいてアニメーターたちはコーディネーション

とファシリテーターの役割を演じる。議員の意欲がこうした専門知の選択において決定的であった。パートナー機関のアニメーターたちは、こうした現状を熟知している。農業会議所の普及員は言う。「Pays Chalonnois ペイの理事長は農業会議所のメンバーである。彼は農業会議所のアニメーターをよく知っている。直売というテーマについて、彼は、最初から、農業会議所の普及員との協力があることを望んでいた。それは 2009 年後度から始まった」。SAFER のアニメーターは、「ペイの現在の理事長は農業者である。私が思うに、Pays chalonnois の機構を考える際に農業を強調していた」。

上述の機関（農業会議所、CERD、SAFER）といった近場の農業機関のコンピテンスを動員する際のこのペイの選択は、議員（この場合、ペイの理事長）の意欲の結果である。こうして戦略的パートナーシップについて語るができる。このペイは地域の NPO も動員する（AFIP,ACTIVE, FDCUMA, フォンテーヌ農業高校）が、調査会社はほとんど活用されていない。

#### IV) Puisaye Forterre の場合

Puisaye Forterre は、地域パートナーシップが弱い。それは調査会社、ブルゴーニュ州の環境省外郭団体 ADEME, Alter bougogne を通じて、離れた専門知をしばしば動員する。Pays Nivernais Morvan のように、農業での活動はペイ契約や LEADER において周縁的である。リーダープロジェクトは若者と青年のための施設に向けられている。その他の目玉のプロジェクトは以下の通りである。気象エネルギープラン、経済整備地域スキーム、商業スキーム。経済整備地域スキームは展望調査であり、ペイはその実施のために、トゥールーズにある Inter-face という調査会社に依頼している。温室効果ガスの診断は、パリの EXPLICIT 会社に委託されている。アニメーターたちは仕様書を作成し、彼らは、商業スキームについて Alter bourgogne に依頼している。経済地域スキームの仕様書については、自営業会議所、気象エネルギープランについては ADEME により支援される。NPO と地方公共団体がペイの地域振興投資プロジェクトの担い手である。会議所の専門知はもはや動員されない。これは二つの理由により正当化される。一方では、ペイ契約の中に農業活動はない。他方で、地域での農業会議所のアニメーターの撤退がある。アニメーター A7 は農業会議所の普及員の地域からの撤退を残念がっている。「およそ 3 年面前に農業会議所のミッション担い手が、様々な活動において農業者を支援するために派遣されていた。彼は真のテーマ的で、技術的、特定のアニメーションを行っていた。残念ながら、ペイで維持することができなくなった」。

近接性の機関（Yonne 県手工業会議所）に重要な活動が付与されているのは、商業スキームである。

専門知の動員において、調査会社が重要な位置を占め、これらは、展望（経済整備地域スキームや温室効果ガス診断）調査に動員される。10-15 年の展望調査が外側からの視点を要求することが、調査会社の選択を正当化する。アニメーター A7 が言う。「10-15 年のスキームを確立するための考察を行っており、これは地域の外側の視点を持つことであり、これが地域の長所と弱点を分析する。中立性もある。調査会社は、我々が彼らに分析すべ



き点に応じて分析し、勧告する」。

#### V) ペイにとっての外的専門知の動機付けは何か

ペイが外部のコンサルタント会社に依拠する三つの動機がある。1) 特定の主題について外部のまなざしを入れる、2) 欠如している専門知、3) 時間のなさ、である。

第一の動機は、「外部的な距離」であり、14人中8人のアニメーターが、外部専門知への依拠の理由の筆頭にあげている。このことは、特定のアニメーターによれば、処理すべき問題の性格に依存している。例えば長期展望や議員への特定のコミュニケーションの場合、外部からの視点がしばしば望まれる。A7は言う。「10-15年の展望の戦略スキームを行う場合、我々は展望する。議員のために意思決定支援する手法の定義が必要であり、そこでは外部の視点が必要だ」。第二の動機付けは、14人中5人が第一位に、14人中6人だ第2位にあげている。

#### 5) 一般的結論

Mamadou(2011)の研究では、アニメーターに共通した特徴は、ジェネラリストとして自らのメチエを格付けし、強い自律性を持っていることである。ペイのアニメーターが自らのメチエに与える意味は、三つの次元がある。

- ・地域の希望に耳を傾ける。次いで、ペイや LEADER プロジェクトの中にこれを統合する。
- ・運営管理の次元。ペイや LEADER プロジェクトは、プロジェクト様式の運営、財務的組み立て、行政的フォローアップを必要とする装置としてみられる。
- ・政治的次元。地域振興の展望においてアニメーターは地方議員と密接に協力する。

パートナーの動員において二つの要素がある。ペイ契約もしくは LEADER プロジェクトにより定義される活動の性格と、アニメーターの関係性である。農業活動では、多角化や直売では、農業会議所や SAFER, CERD といった農業職能機関に依拠する。

ペイ契約や LEADER プログラムでは、活動の方向付けの選択は議員の意欲に依存する。そこから農業会議所のような、農業職能機関の困難が生じる。農業会議所はこの分野での専門知を保持したいとするが、その配慮は必ずしも議員のそれとは一致しない。農業職能団体は、ペイ契約や LEADER プログラムにおいて、川上で、農業活動を統合するための戦略を見いださなければならない。